

都公退連合会会報

第6号

発行日 2026(令和8)年3月31日
発行所
東京都公立学校退職教頭・副校長
連合会 会長 大西規子
〒176-0005
練馬区旭丘 1-29-6
電話 03-3950-8969



東京都公立学校退職教頭・副校長会連合会

目 次

1. 都教委への要請 会長 大西規子…………… p 3
2. 連合会とは 山浦朝日…………… p 4
3. 令和7年度総会報告
令和6年度 行事報告・決算報告……………p 5
令和7年度 行事計画(案)・予算(案)…………… p 6
4. 令和6・7年度 連合会役員名簿……………p 7
5. 令和7年度活動報告…………… p 8～P14
 - ・教育相談活動報告
 - ・魔法の文学館研修報告(小学校)
 - ・親子囲碁教室(都立学校)
 - ・講演会報告(副校長の働き方改革)
 - ・中学校部会の令和7年度研修旅行報告(中学校)
 - ・新年会報告(小学校)
6. 令和7年度 連合会アンケート報告 小学校部会… 大谷 明
「副校長の働き方改革について」…………… p15～p19
7. 東京都教育委員会への要請文…………… p20
8. 連合会会則……………p21
9. (公財)日本教育公務員弘済会東京支部教育振興事業選考委員会について …… p23

令和7年度 都教委への要請

東京都公立学校退職教頭・副校長会連合会 会長 大西規子

皆様 お変わりございませんでしょうか。日頃より都公立学校退職教頭・副校長会連合会にご支援賜り誠にありがとうございます。連合会では今期7年度も活動の柱として東京都教育委員会に要請活動を実施いたしました。



そのための準備としてアンケート実施の確認とアンケートの目的を検討いたしました。そこでの話し合いの結果、今年度は小中高の副校長の実態を明らかにし副校長が抱えている課題に焦点を絞ることにいたしました。

副校長の働き方改善に向けて私共が過去に四苦八苦してきた経験をよみがえらせながらアンケート項目を検討し夏に各部で実施いたしました。アンケート結果を踏まえながら改革の糸口をみつきたいと現職の副校長先生や最近まで現職で活躍されていた行政経験、校長経験者をお招き致しました。現場の先生からの貴重なお話を聞くことができ有意義な機会となりました。ご協力いただきました先生方に改めてお礼を申し上げます。

昨今の教育界の変化は加速の一路をたどっております。退職後数年の若手の退職副校長ならまだしも、退職後十数年たっている私などは今の教育現場を予想することさえ困難です。とはいえ今の現場の課題も過去の流れのなかから生まれてきていることに目を当てれば、そこに一筋の改善の流れが見えてくる気が致します。さまざまな物事の課題は、そこに携わってきた方々の頑張りや苦難などの本（もと）を大切にすることによって新たな視点が見えてくるのではないのでしょうか。教育の課題も例外でないと考えます。

そんな思いから現在の様々な課題も過去を知ることで、解決の道筋が見えてくると会員一同この一年の活動を自画自賛しているところです。

社会に目をむけますと初めての女性総理（高市内閣）が昨年10月に誕生しました。私は高市氏と同郷奈良(母校)の愛着も抱きながら、賛否両論の中でリーダーとして誇りと矜持を感じました。世界にはばたく日本人の育成を目指しているのだと感じています。



その為にも教育の果たす役割の大きさは絶大です。会員一人一人が教育の力を今一度再確認しながら都退職教頭、副校長会の社会的役割として貢献できることを微力ながらこれからも模索していきます。

今後とも引き続き多くの皆様のご支援ご鞭撻をお願いしてご挨拶にかえさせていただきます。

連 合 会 と は …

『連合会(略称)』は、およそ30年の歴史を持つ組織です。

スタート時は?

退職後の処遇(年金・退職金の削減反対等)に関して、それぞれの部会が、現職教頭の処遇向上等も含め、個別に都教委へ要請していました。小学校部会と都立学校部会が連携を深めた時、中学校部会に声掛けが行われ、中学校会員の有志が参加し『連合会』を名乗ることとなりました。ここに、校長会にも無い、特色ある『異校種連携』が生まれました。

『連合会』は、

- 1、東京都公立小学校退職教頭・副校長会
- 2、東京都公立中学校退職教頭・副校長会
- 3、東京都立学校退職教頭・副校長会

の3団体が、『東京都公立学校退職教頭・副校長会連合会』という名のもとに、教育振興のための諸活動をしています。

『連合会』は、三つの視点を持っています。

- 1、自分たち自身を見つめる眼。

退職後の生活が豊かなものであるように。

職責を果たしたことが、公に、認められるように。

- 2、後を継ぐ者たちを見つめる眼。

職務に専念できる環境が整えられるように。

公教育の担い手として責任を果たせる力を身につけるように。

- 3、子どもたちを見つめる眼。

『生きる力』をきちんと身につけられるように。

『いじめ』や『貧困』にさらされることの無いように。

『連合会』は、『役に立つ会』でありたい。

会員にとっては…情報交換が役に立つ集まり。

会うことが楽しい集まり。

社会に対しては…経験を生かしたボランティア活動。

機会を生かした発信活動(教育を語る)。

校種を越えた貴重な出会いの場。これからも繋がり続け、新しい人脈が生まれる場であって欲しい、と願っています。

これからの連合会を考える視点は。

変化を受け入れつつも、公教育の危機を感じる今、『異校種』が交流できる貴重な場を失いたくはないと思います。

- ① 自身の生活を守るために、どんな活動が出来るのだろうか。
- ② 学校教育を守るために、どんな活動が出来るのだろうか。
- ③ 子どもたちを守るために、どんな活動が出来るのだろうか。
- ④ 組織の維持発展や若返りは、どうすれば可能なのだろうか。

また、「公教育の危機」のうち、少子化によってもたらされる危機は、解決が遠いけれど、『いじめ』『不登校』『格差』については、このままで良いのかと、大声を張り上げなくとも、連携し、機会を捉えて、誠実に、訴え続ける集まりでありたいと思います。

(文責 山浦朝日)

令和7年度総会（2025.6.21）報告

1 令和6年度

行事報告

新年会以外は、ちよだプラットフォームスクエア・世田谷ボランティアセンターを使用

令和6年	5月13日(月)	要請文勉強会
	6月4日(火)	総会準備(原案作成)
	6月27日(木)	定期総会
	9月	都教委への要請文検討会
	12月	東京都教育委員会へ要請活動
令和7年	1月25日(土)	賀詞交歓会(新年会)…九段
	3月11日(火)	年度反省, 次年度予定作成

決算報告

単位：円

収入の部	金額	摘要
前年度繰越金	66,783	
令和6年度分担金	15,000	5,000×3部会
研究助成金収入*	500,000	HP開設・維持、連合会報、研究費他
収入額合計(W)	581,783	

支出の部	金額	摘要
研究助成金支出	*500,000	
新年会補助	2,000	
支出額合計(X)	502,000	HP開設・維持、連合会報、研究費他
残高(W-X)	79,783	
次年度繰越金	79,783	

【凡例】*印は、日本教育公務員弘済会から教育研究活動の助成を目的として交付されたもの
上記の通り、報告いたします。

令和7年3月31日

大西 規子 印

2 令和7年度

行事予定(案)

新年会以外は、ちよだプラットフォームスクエア・世田谷ボランティアセンターを使用

令和7年	6月3日(火)	総会準備(原案作成)
	6月20日(金)	定期総会
	9月10日(火)	都教委への要請文検討会
	11月中を目途に	東京都教育委員会へ要請活動
令和8年	1月31日(土)	連合会新年会(12:00~)予定
	3月11日(水)	年度反省, 次年度予定作成

予 算 (案)

単位:円

収入の部	金額	摘要
前年度繰越金	79,783	
令和7度分担金	15,000	5,000×3部会
究助成金収入*	500,000	HP維持、連合会報、研究費他
収入予定額合計(Y)	594,783	

支出の部	金額	摘要
都庁要請活動費、会場費など	30,000	
研究助成金支出	*500,000	HP維持、連合会報、研究費他
支出予定額合計(Z)	530,000	
残高予定額(Y-Z)	64,783	
次年度繰越額	64,783	

【凡例】*印は、日本教育公務員弘済会から教育研究活動の助成を目的として交付されたもの
「新年会」は、その都度決済し、残高は会費に繰り入れる。不足時は、会費で充当する。

令和6・7年度連合会役員名簿

顧問	氏名
小学校	野沢 宏治
中学校	山浦 朝日
都立学校	前川 法久

連合会会長	令和6・7年度は小学校
小学校	大西 規子

副会長	各部会4名
小学校	高松 泉
小学校	大谷 明
小学校	須山 道雄
小学校	宮崎 博佳
中学校	相原 一矢
中学校	西川 順
中学校	松島 健治
中学校	小出 統英
都立学校	前迫美智子
都立学校	平田 晃
都立学校	針馬 利行
都立学校	大河内保雪

理事	各部会4名以上
小学校	岩本 美枝
小学校	石渡 明
小学校	川上 紀代子
小学校	藤井 正昭
中学校	大西 幸江
中学校	飛弾 静子
中学校	福岡 健
中学校	和田 俊彦
都立学校	長田 真一
都立学校	小川 達夫
都立学校	堀江 徹
都立学校	湯澤 賢兒

監事	各部会1名
小学校	宮本 叔徳
中学校	山口 敬子
都立学校	松田 輝美

選考委員	各部会より
小学校	豊田 英昭
中学校	西川 順
中学校	福岡 健
都立学校	大河内保雪

活動報告

教育相談活動報告

都立学校退職教頭・副校長会会長

大河内 保雪

令和7年度に都立学校退職教頭・副校長会では、「さんだるセミナー高校学校説明会」において、11回の教育相談を担当しました。

中学校では、不登校やいじめが増加しており、多様な生徒への対応が必要となっています。そこで、生徒一人ひとりの学びを充実させるために、多様な高校選択が必要となっています。都立学校退職教頭・副校長会では、高校進学のための相談マニュアルを作成し指導にあたっています。

1、「中学生保護者のための高校進学相談マニュアル」

◇ 2025年度の社会的状況の把握

高校教育無償化により都立高校よりも私立高校への人気が高まっている。

都立高校全日制課程では、定員割れがあり、専門学科高校も同じである。

エンカレッジスクールや昼夜間定時制高校への人気が高い。

令和6年度(2024)都立高校入試から男女定員枠が無くなったが、上位校や中堅校では男女比がほとんど変わらない。背景にはジェンダー平等の理念がある。

一部女子が多い学校もある。

女子が都立高校の上位校や中堅校に入学しやすくなった。男子の場合は逆である。

◇ 進学相談の必要性とは

- ・教育相談では、不登校や学習障害の子どもを持つ親からの相談が多い。
- ・高校進学の情報が行き届いていない。
- ・成績が悪いと高校進学は諦めなければならないのか。
- ・都立高校は多様な学校があり、どの高校を選ぶべきか迷っている。

◇ 相談者が心がけてほしいこと(進学相談の前に大切なこと)

- ・中学校生活を充実させること
- ・自分の長所を見つけること(自己肯定感を高める)
- ・自分の興味や関心を大切にする
- ・なりたい職業を見つける(将来の進路を明確にする)

◇ 一般的な高校選びの実際

- ・都立高校の場合は、内申点の合計が目安となる。

上位校の場合—42以上

中堅校上位の場合—34～41

中堅校下位の場合—27～33

底辺校の場合(普通科、専門学科)—18～26

底辺校の場合(チャレンジ、エンカレッジ、昼夜間定時制)—17以下

2、進学相談の内容

- ・発達障害、特別支援学級生徒からの相談
⇒チャレンジスクールを考える
- ・不登校気味な生徒の相談
⇒チャレンジ、エンカレッジ、昼夜間定時制
- ・成績の上がない生徒の相談
⇒勉強方法を考え直す、予習と復習が基本である、生活習慣から見直す
- ・学習意欲のない生徒の相談
⇒自分のやりたいこと（目標）は何かを考える。自分の得意（好きな）教科を伸ばす。

3、都立高校の種類と特色（入試方法の違い）

- ◇ チャレンジスクール 学力検査なし、調査書なし、志願申告書、面接、作文
- エンカレッジスクール 学力検査なし、調査書、面接、作文、
- 専門学科高校 5教科、調査書
- 全日制普通科高校 5教科、調査書
- 定時制課程 3教科、調査書、面接
- 昼夜間定時制課程 3教科、調査書、（面接又は作文）
- 通信制高校（新宿山吹、一橋、砂川） 4月に入試

- ◇ 都立高校推薦入試の勧め なぜ、推薦入試を勧めるのか。

推薦入試指導で学ぶことは、中学校教育の最終到達点

自己肯定感、自己理解を深めること、

推薦入試合格のために取り組むこと

自分の関心や興味を追求する

中学校生活を充実させる

将来のなりたいことを見つける

- ◇ 推薦入試面接指導の実際

聞かれることは3つしかない

ズバリ、短く応えることが面接の基本

自分の長所をアピールせよ



- ◇ 推薦入試作文・小論文指導の実際

文字を丁寧に書くこと、濃い目の鉛筆を使うこと

自分の体験を文字にして表すこと

- ◇ 学んだ知識から引き出すこと

具体的なテクニックの実際

「私」「思います」「考えます」は、使わない（文末を力強く）

3段階で構成するー「はじめに」、「本論」、「まとめ」

講演会報告

テーマ:副校長の働き方改革について — 職副校長の職務内容とは —

連合会

日時： 2025年11月2日(日)日曜日 午後1時より5時
場所： 世田谷ボランティアセンター会議室
講師： 安富良貴(都立小笠原高校副校長) (オンラインでの参加)
参加者： 15名

・テーマ設定理由

文科省の調査によれば、教頭・副校長は、管理職の中でも最も時間外勤務が長い職種のひとつとされています。そのために、副校長の働き改革は、緊急の課題となっています。副校長が生き活きとして学校経営に参画して、持続可能な学校改革に取り組むことにより、生徒・保護者・地域と学校が一体となり教育改革が実現します。

副校長の職務としては、学校の調査統計や経営管理、教職員の指導・支援、教育活動の推進、保護者・地域との連携等が行われてきました。そして、副校長の多忙化解消のために、副校長補佐の配置、外部からの学校支援員の配置、ICTを活用した業務の効率化が図られています。ところで、このような多岐にわたる副校長の職務は、デジタル化による社会の変化、児童生徒の多様化、地域・保護者・教員の学校に対する意識の変化、教員間のコミュニケーションの欠如、教員不足などにより時代と共に変化しています。

そこで、今日の副校長の職務内容について具体的に理解を深め、副校長の働き方改革を考えることとしました。

・講演内容と質疑応答

都立小笠原高校安富副校長のオンライン講演が30分間行われた。小笠原高校における副校長の職務内容に触れながら、若手教員への指導や地域連携について話が合った。

その後、本会が今年度実施した「副校長の働き方改革」アンケートの結果が発表された。詳細は、別紙アンケート結果の報告をご覧ください。

講演とアンケート報告を受けて元都立高校校長吉田亘氏をコメンテーターとして現職副校長の職務内容について討議が行われた。

都立小笠原高校のように、副校長が地域と連携した学校づくりは、今後の都立高校改革に参考となった。



第一部 要請書の検討

13:00～14:00 各部会からの要請書の検討

第二部 講演会

司会 大西規子

14:00～14:10 連合会会長挨拶 大西規子 (小学校部会)

14:10～14:30 参加者紹介と問題提起

14:30～15:00 講演「現職副校長の職務について」 (オンライン参加)

15:00～15:15 質疑応答

15:15～15:40 「連合会アンケート結果の報告」

15:40～15:50 休憩

15:50～16:50 質疑応答

16:50 終了

17:30～ 希望者による懇親会



◎ 「副校長の働き方改革について」のアンケートの集計結果は、p15～掲載しています。

ここで、計算(暗算)問題10秒以内
で答えてください)

$$720 \div 4 \div 3 \div 6 \quad ?$$

720を4×3×6=72で割ればよいので
720÷4÷3÷6
正解は10

魔法の文学館研修報告

小学校部会 宮本叔徳

本年度の退職教頭・副校長会の研修会は江戸川区角野栄子児童文学館の『魔法の文学館』を訪問しました。

雨模様の中、地下鉄東西線の葛西駅に集合しタクシーで出かけました。隈研吾氏設計の白い建物の中には角野栄子さんの作品と功績を多くの方々に知っていただくとともに、子どもたちに豊かな想像力を育む場となることを目指した様々なものが置かれていました。

『魔女の宅急便』の舞台になったイチゴ色の「コココの町」が広がり、壁一面に映しだされるプロジェクションマッピングや4面映像の「黒猫シアター」など楽しい仕掛けであふれていました。

「おうち形」の本棚には角野栄子さんの作品はもちろん角野さんが自ら選んだ世界の児童書や絵本がありました。しばし、私たちも絵本を手にとって読んでみました。子どもたちの自主性を活かすべく敢えてあまり分類せずに配架されているとのことでした。子どもたちは自由に本を選び、好きな所で読むことができます。

角野栄子さんのアトリエの傍には、生まれてから今までの歩みの写真が並んでいました。清楚な生活から、素晴らしい作品を生み出した栄子さんの様子がわかり、感銘を受けました。文学館を出たころには雨も止み、隣のポニーランドの横を通り、葛西の町を散策しながら駅に向かい、解散となりました。



【コココの町】



【「おうち形」の本棚】



【角野さんの写真の部屋】



【魔法の文学館の前】



【隣のポニーランド】

中学校部会の令和7年度研修旅行報告

南房総に行く

中学校部会 小出統英

令和7年11月29、30日(土日)に、車3台で中学校と高校と小学校のメンバー11名で、南房総に行ってきました。3台の車の集合場所は、内房の浜金谷と鋸南町の間にある鋸山(のこぎりやま)にある「日本寺(にほんじ)」の駐車場でした。駐車場が離れて2ヶ所あり、別々に行ってしまうとすったもんだしての旅の始まりでした。でも携帯電話を大いに使って全車そろえることが出来ました。

本堂のそばにある広場には、山面を削ってできた高さ31mもの日本最大となる日本寺大仏(磨崖大仏)があり、私たちが穏やかな顔で迎えてくれました。鋸山の急な斜面に広がる広大な境内には、東海千五百羅漢と呼ばれる実に多く(約1500体)の石仏群が2,639段もの石段の(アップダウンだらけの)コースに立っていました。山腹斜面を登り降りして全コースを歩くとすれば、1時間40分もかかるとのことです。コースの先(上)には東京湾や三浦半島を見渡せる標高330mの山頂に至り、有名な地獄のぞきの山頂展望台がありますが、そこまで辿り着けたのはほんの数人で他の人は歳が年だけにすごい石段登りにめげてちょっと羅漢の像をみて戻ってきました。あまり知られてはいない日本寺ですが、実にスケールの大きい本格的な“すごい山寺”だとわかりました。

昼食は、鋸南の保田漁港にある“番屋”という大きな食堂でしました。番屋ならではの新鮮な海の幸をたっぷり味わうことができました。食後は、番屋の近くにある「菱川師宣(もろのぶ)記念館」を訪ねました。「浮世絵の祖」と知られた菱川師宣が江戸時代の安房国保田出身なので、浮世絵専門のミュージアムが建てられたとのこと。浮世絵については、大河ドラマのべらぼうを見ていて身近になっており、じっくりと見入ることが出来ました。

その後は、のどかな南房総の道をのんびりとドライブをして南房総白浜にある「野島崎灯台」まで行きました。天気にも恵まれ、キラキラと夕日に輝ぐ海の向こうには大島が大きく見えました。真っ赤な太陽が島に沈みゆく景色の夕焼けに、私たち|ましばし我を忘れて見入ってしまった。

宿は、リーズナブルな料金でバイキング料理が楽しめる白浜の南国ホテルに泊まりました。大に飲んで食べ、部屋に戻ってからも夜遅くまで教育論議とともに、歓談と小学校部会。中学校部会・高校部会の親睦を深めるひと時を過ごすことができました。そして、翌朝は、窓の外に広がる太平洋を眺めつつのんびりと過ごしてからホテルを出ました。

2日目のメインの見学地は、日本三大金運神社の一つといわれる「安房神社」でした。産業・技術・商売・事業等の活動の繁栄を司る天太玉命(あめのふとだまみこと)が祀られている有名な神社とのこと。広い境内には、晩秋の時でもあり、境内の大きなイチョウの本は葉が黄色く輝き、古くからある神社ならではの厳かな雰囲気が境内に



<南国ホテル 前>



＜安房神社＞

ただよい、心の浄化をすることができました。
社務所では、どこの神社にあるようなお守りが売られていましたが、その中でこの阿波神社ならではの初めて見るお守りが一つありました。それは“足腰守”です。私たち高齢者にとってはありがたいお守りです。そのことを紹介したらメンバーの多くが購入したようです。(小生は右足用と左足用にと2つも購入しました。)最後に道の駅に立ち寄り、地元の海産物や野菜やお土産を買って解散となりました。

親子囲碁教室

都立学校

- 1) 毎月第一土曜日(午後13時～午後15時)に開催しています。会場は、世田谷ボランティアセンター(東急田園都市線三軒茶屋駅から徒歩10分)。
- 2) 活動…どなたでも、そして親子で囲碁を楽しんでもらうため、対局や初心者向けの指導碁を中心に行っています。中高生には、囲碁教室の前に学習時間を設け、教科指導(主に、英語、数学)も行っています。希望があれば、様々に対応します。
- 3) 参加者を募集しています。…親子に限らず、どなたでも、参加できます。初心者の方、囲碁をやってみたいと思っている人、有段者の方大歓迎です。



新年会 (2026. 1. 31)

担当 小学校部会

今年7年度の新年会も都弘済会事務局近くの麒麟宴でおこないました。今年は会場を変更することも考えましたが、昨年と同じでいいよと何人かのお言葉をいただき昨年同様、麒麟宴となりました。都合がつかず最終的に欠席となった方もおられましたが14人の方にご参加いただきました。小中高が一緒になり和気あいあいと楽しい数時間を過ごしことができ心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

参加者 都立：湯澤、針馬、堀江、前川、小川、岡田、大河内 中学：和田、幸丸、西川
小学校：豊田、大谷、川上、大西 計14名



令和7年度研究報告

東京都公立学校教頭・副校長会連合会アンケート報告

主題「副校長の働き方改革について」

小学校部会 大谷 明

1. 主題設定の理由

相変わらず教育課題が山積する教育現場では、教員採用試験の応募者の減少が続き、有為な教員人材の不足が起こっており、年度当初から担任が配置できないような状況が生じる学校もあるようです。現職教員はますます多忙となっていますし、教員の病気休職等でも、補充の講師等の配置が出来ない状況もよく耳にし、対応に苦慮されている副校長からの声も多く聞いています。さらに、最近では教員の性犯罪事件も多く報道されています。言語道断な行為ですが、このような事案についても副校長の対応が求められます。

様々な対応が求められる副校長ではありますが、決してスーパーマンではありません。副校長にも働き方改革が進められ、個々人の能力が地域や学校で十分発揮されるようになることが、山積する学校現場の教育課題を解決していく第一歩になると考えます。

そこで、東京都公立学校退職教頭・副校長会連合会では、今年度は「副校長の働き方改革について」を主題に設定し、副校長に求められる働き方改革を明らかにし、教育委員会への要請活動へも生かしていきたいと考えました。

2. 研究方法

小学校部会、中学校部会、都立学校部会それぞれで同一の内容でアンケートを実施し、回答の分析を行いました。

実施期間は令和7年7月25日～8月31日。会員157名からの回答を得ました。

3. 考察

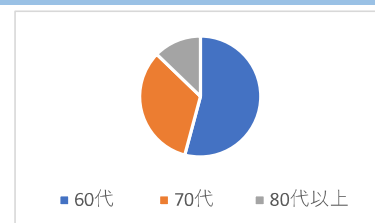
- ① 副校長の働き方改革に関して、副校長職務の明確化と欠員補充の人事管理に改善の必要があるとの多数の回答がされました。
- ② 副校長の資質・能力として重要なものは、組織マネジメント力、危機管理能力、人材育成能力が挙げられていました。
- ③ 副校長業務の中で他職種に移管できる業務としては、調査統計の管理や転出入の事務関係に回答の多くが集中しました。

副校長の職務を明確にし、人事管理、組織マネジメント、人材育成に注力できるよう、調査統計の管理など他職種への移管を図ることが求められていると考えます。

2025 連合会アンケート 「副校長の働き方改革について」

1 回答数	小学校	55
	中学校	65
	都立学校	37
	計	157

2 あなたの年代層を教えてください	① 60代	85
	② 70代	52
	③ 80代以上	20
	計	157



3 あなたにとって、副校長の資質・能力として重要と思うものは何ですか。(3つまで回答可)	① 豊かな人間性と教育理念	75
	② 人材育成能力	72
	③ 組織マネージメント力	90
	④ 危機管理能力	81
	⑤ 教育法規等の知識力	11
	⑥ 対外折衝能力	33
	⑦ 連絡調整能力	69
	⑧ 教科指導力、児童生徒指導力	3
	⑨ 教育に関する高い見識	8
	⑩ その他()	
計	442	

その他

4 あなたにとって、副校長の働き方改革に関して改善の必要があると思うものは何ですか。(3つまで回答可)	① 副校長職務の明確化	89
	② 情報通信技術(ICT)活用による業務効率化	54
	③ 教職員の勤怠管理	43
	④ 支援スタッフ管理	46
	⑤ 欠員補充の人事管理	99
	⑥ 勤務時間(超勤4項目)の管理厳格化	29
	⑦ その他()	8
計	368	

その他 (中) 都、区から校長に教職員への周知を求めるメールを教職員全員に一斉メールをしてほしい。

の内訳 (中) 学校に掲示依頼するポスターを一斉依頼しないでほしい。紙のムダ、掲示板がない

(中) 講師がみつからず大変苦労をした思い出があります。

(中) 校舎等学校施設管理

(都) 地域連携活動と勤務時間との関係

(都) 教育庁からの調査の精選

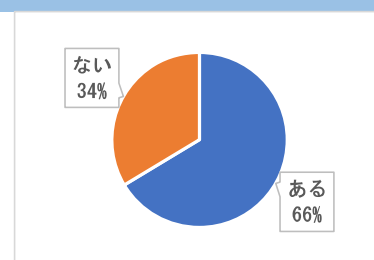
5 あなたは副校長業務
の中で他職種..(事務職
員等)に移管できる業
務はどれだと思いま
すか。(3つまで回答
可)

① 学校行事の準備運営	19
② 調査統計の管理	122
③ 転出入の事務関係	101
④ 支援が必要な児童との連絡調整	24
⑤ 地域関係者との連絡調整	29
⑥ 児童生徒の登下校指導	33
⑦ 放課後の児童生徒への対応	40
⑧ その他()	5
計	373

その他 (中) 保護者、生徒への対応(発達障害、未納、暴力等校舎等学校施設の管理
(都) 外国語教育(特に会話)の強化

6-1) あなたが現職時代に副校
長・教頭として働き方改
革に取り組んだことはあ
りますか。

① ある	103
② ない	52
計	155



6-2) 6-1)であると答えた
方にお尋ねします。
それはどのようなこ
とですか。(3つまで
回答可)

① 教職員の勤務時間管理	52
② 教職員の休暇調査	27
③ 教員・事務職員等との連携	53
④ 運営事務の効率化	54
⑤ 郊外折衝の効率化	19
⑥ その他()	8
計	213

その他 (中) 部活動時間、回数などのルールの徹底
(中) 通知表所見の廃止、週28時間授業(1/月)
(都) 近隣小中学校との連携、文科省の委託研究

7 あなたにとって副校
長の働き方改革を進
める上で改革が可能
だと思えることは何
ですか。(3つまで回
答可)

① 部活動支援	49
② 学校業務支援	114
③ 不登校児童生徒の支援	37
④ 特別支援教育の支援	17
⑤ 外国籍児童の支援	25
⑥ 地域連携地域活動の支援	56
⑦ その他()	7
計	305

その他 (都) 調査業務の縮小化
(都) 副校長業務の中で教委の調査がある。多くは「偽にする」調査。改めてほし
い。

8 我が国の教育改革を進める上で必要なのはどんなことですか。(3つまで回答可)

① 学力向上の推進	32	
② 教育デジタル化の推進	24	
③ 教員の働き方改革の推進	67	
④ 学級定数改善の推進	72	
⑤ 教員定数改善の推進	101	
⑥ 教師の質の向上の推進	91	
⑦ その他()	9	
計	396	

その他 (中) 育休・産休教員を区や都が見つけてほしい

(中) 教員の待遇改善→質の向上は、若者が働きたいと思える職場である必要がある

(都) 定数改善を児童・生徒・教員で進めつつ、校舎や施設設備の改善・充実を

(都) 不適切な人材の排除、校長の信頼が著しく低下

(都) 外国語教育（特に会話）の強化

(都) 特別支援に手厚い教員配分がある。普通学習の方にも適切な習熟度別の教員割り当ての体制が必要。

9 働き方改革へのご意見がありましたらご記入ください。(続く)

小学校 古い校舎だと水道管や様々な所が不調になってきます。木々の枝の管理や芝生、プールの管理も含め対応者が欲しいです。

小学校 国が教育に対する根本的な意識を変えないことには、教育に対する様々な問題を解決することは難しい。

小学校 教員の数を増やすことが一番効果的だと思う

小学校 入学式、卒業式が働き方改革によって簡素化されていました。あつという間に終わった感がありました。時間は短くとも心に残るものにしてほしいと思いました。

小学校 小学校の給食・清掃時の指導は教員免許はいらないと思う。担任の負担を減らすためその部分にも補助員をつけたい。

小学校 AIの活用など管理職、教員ともにICT活用能力を高める必要がある。

小学校 教員の質が下がっているのに働き方改革と称してサボっていったら思えない教員が多い。正しい定義のようなものを文科省や都教委が示してほしい。

小学校 保護者対応に時間を多く費やし苦慮しました。保護者対応の窓口が学校以外にもさらに増えると働き方改革へ繋がると感じています。

小学校 副校長、教員を含め随分働き方改革への理解と改善が進んできたように思います。ただ多くの業種で人手不足の現在遅すぎました。今後の公教育のますますの質の低下が心配です。

小学校 働き方改革を推進しながら効率よく、教員、副校長から学校全体の教育力を維持していくことが課題です。

小学校 現状は新採（経験が浅い教師）にもベテラン並みの対応が保護者から求められている気がする。若手の離職、教員志望者の減少につながっている。

小学校 若者には自分軸をもって指導に当たれば良いと励ます組織や助言者が欲しい。困った時に悩みを聞いてくれる組織

9 働き方改革へのご意見がありましたらご記入ください。（続

- 小学校 教員と福祉の役割分担の推進
- 小学校 様々な形で支援が行われているが、そこに配置される職員の勤怠管理の仕事が増加している。
- 小学校 学級定数の減員、教員定数の増員。一つの学級を複数の教員で担当する（集団指導）ことで教員一人一人の負担を軽減する。
- 小学校 保護者・地域からの苦情対応（特に初期対応）も副校長の役割で重い負担となります。弁護士や警察官がさらに熱くサポートする体制も必要だと思います。
- 小学校 副校長の場合、何でも屋傾向があるところを変えられたら良い。
- 小学校 責任体制を明確にし、任せる（資質向上を前提に）
- 小学校 副校長は何でも屋ではないはずですが、自分が現役の頃は事務や用務の仕事までやり、人材育成や組織マネジメント等の副校長でなければできない仕事の後回しになってしまいました。
- 小学校 大変忙しいので副校長複数化を求めます。
- 小学校 力のある教職員程仕事が多く待ってきます。人員は常に多くある方が現場は助かるので様々な職種体系（例えばSSWの複数導入や副校長補佐の短い時間の複数配置など）
- 小学校 現場の声に合った職があると良い。
- 小学校 何か必要ないことと大切なことの区別を明確にすること。無駄をなくすこと。
- 小学校 副校長の事務を減少する。これに尽きると思います
- 中学 社会の過大な期待に無理して答えず
- 中学 務時間内の教育支援における質の向上を優先する
- 中学 教員の時間改善を計ること。もっと時間を少なくする
- 中学 学校、教員が担う職務が広すぎるのが根本原因。外注できることは外注し、給与を上げる。教員定数を蓋然する。そうして、教員の資質（技能）向上を図る必要があると思います。
- 中学 学校協力への父母、地域、国の理解と協力
- 中学 1、教育課程 2、教職員 3、施設 1は大切なのに現場任せになっている。3は移管できそう
- 中学 若い方々に期待します。
- 中学 日本全国的に働き方改革と言って仕事量をへらし、仕事をしない方向に行っているような気がします。（例えば、銀行のお昼休みのため閉館するなど）
- 中学 発達障害で指導が入らない生徒が、暴力、授業妨害を繰り返す。その子供の親も学校に協力が無い。体を張って暴力を止める教員、夜、九時や十時まで保護者に対応する教員がいる。様々なケースに対応する部署が無い限り、教員のなり手はいなくなると考えます。
- 中学 無駄を省く、効率を上げる、過剰名ものをなくす。事は賛成 しかし楽をするためにサービスを低下になる部分は反対
- 中学 欠員の有無、児童生徒の問題行動への対応、支援の有無配慮指導を要する教職員の有無で副校長の大きくなる学校の課題に対応をした支援を行わなければ、働き方改革にならない。
- 中学 デジタル化が働き方改革を妨害している面もある。

9 働き方改革へのご意見がありましたらご記入ください。（続き）

中学	若者は、教員という仕事に魅力を感じていない傾向にあります。やりがいを盾に、超勤勤務を強いられる、ブラックな職場という若者もいます。それが人事不足につながり、副校長の負担も増えてしまいます。年齢上限がなくなっても、高齢の教員の中にも、古い指導法から抜けられない人も多く、ICTについていけなかったり、今では暴言とされる言葉を使ってしまう方もいたり、副校長の悩み尽きずというところです。
中学	教員の働く意欲、やりがいを大切にしながらの改革が必要であると考えます。労働内容や労働力に応じた報酬を出す等
都立	労働単価が安すぎる！
都立	都よりの調査他やたら多くなっている。定年延長に伴う全教職の高齢化は、防ぎたい。
都立	調査報告業務を少なくすれば少しは楽になると思います。
都立	社会教育を充実させ、クラブ等はそちらの方に移す。
都立	子ども達同士の学び合い、教え合いもうながせる教育体制も必要と思います。
都立	都教委への要望①良い教員の確保のため採用試験倍率の増加、そのために教員の待遇改善 ②いろいろな高校の開校しすぎなので、統廃合の促進をし、また旧各学区に在京の生徒用の高校を1つずつ開校する。
都立	余裕を持った教職員の採用
都立	勤務時間オーバーになる仕事内容を具体化し、これを解消する具体案を示すこと
都立	働き方改革は、どんどん進めてほしい
都立	時間内で仕事の効率を上げる
都立	副校長の権限をもっと広げることが必要。割り当てられた業務を無難にこなすことだ
都立	AIの活用が必要
都立	副校長の発言の重さの拡大

項目9のまとめ

1. 小学校からのご意見

小学校からは、教員・副校長の負担軽減に直結する具体的な提案が多く見られました。

- ・人員配置の拡充と業務分担の明確化
- ・教員の数を増やすことが最も効果的。
- ・学級定数の減員、教員定数の増員、一つの学級を複数の教員で担当する団指導の推進。
- ・副校長複数化を求める。
- ・給食・清掃時の指導は教員免許が不要なため、補助員をつけるべき。
- ・副校長の事務を減少することが重要。
- ・副校長の「何でも屋傾向」を変えるべき。事務や用務の仕事で、本来の仕事（人材育成、組織マネジメント）が後回しになっている。
- ・ICT活用と職質の向上
- ・AIの活用など、管理職、教員ともにICT活用能力を高める必要。
- ・教員の質が下がっているのに、働き方改革と称してサボっているとしか思えない教員もいるため、正しい定義を文科省や都教委が示すべき。
- ・対外的な対応の負担軽減
- ・保護者対応の窓口が学校以外にもさらに増えることが働き方改革へ繋がる。
- ・保護者・地域からの苦情対応（特に初期対応）は副校長の重い負担であり、弁護士や警察官によるサポート体制が必要。

2. 中学校からのご意見

中学校からは、職務の根本的な見直しと、若手教員確保に関する意見が目立ちます。

- 職務の範囲と時間の見直し
- 学校、教員が担う職務が広すぎるのが根本原因。外注できることは外注し、給与を上げるべき。
- 教員の時間改善を計り、もっと時間を少なくする。
- 無駄を省く、効率を上げることに賛成だが、楽をするためにサービスを低下させる部分には反対。
- 勤務時間内の教育支援における質の向上を優先すべき。
- 人材・資質に関する問題
- 教員定数を蓋然し、教員の資質（技能）向上を図るべき。
- 若者は教員という仕事に魅力を感じず、超勤を強いられるブラックな職場と見なす者がいる。
- 教員の働く意欲、やりがいを大切にしながらの改革が必要で、労働内容や労働力に応じた報酬を出すべき。
- 欠員の有無や問題行動への対応などで、副校長の負担が増加しており、学校の課題に対応した支援を行わなければ働き方改革にならない。

3. 都立学校からのご意見

都立学校（高校）からは、調査業務の削減と、教職員の待遇・質の向上に関する意見が中心です。

- 業務の削減と効率化
- 調査報告業務を少なくすれば楽になる。都よりの調査がやたら多くなっている。
- 時間内で仕事の効率を上げる。
- 勤務時間オーバーになる仕事内容を具体化し、解消する具体案を示すこと。
- 教職員の待遇と権限
- 教員採用試験倍率の増加と教員の待遇改善により、良い教員を確保すべき。
- 労働単価が安すぎる。
- 副校長の権限を広げることが必要。無難にこなすことが重要視される風潮は副校長職の魅力を減じる最大の要因。
- その他
- AIの活用が必要。
- 社会教育を充実させ、クラブ等はそちらに移す。
- 定年延長に伴う全教職の高齢化を防ぎたい。

10 自由記述

- 都立 教員採用試験の低倍率による教師の室の低下。管理職選考の倍率低下による、管理職の質の低下の2点を最近感じる。
- 都立 学校間格差があるとおもいますが 中高の忙しさに比べ小学校は楽だと感じています。学校の仕事量について今後は AIを活用するなど 早急に改善される方策を取れると思います。東京都から先駆けてできるのではないのでしょうか。外部組織との連携を
- 都立 設問が小中学校 こう向けで回答しがたい 丸商中学校での問題点としては現在の私がかかわっている範囲では外国籍、教員の欠員、学級定員、教員の資質・能力不足…ですが…！

10 自由記述

- 都立 学校の管理をすることも大切ですが 学校全体が1チームとして動けるようにアシストしてゆくのも管理職の仕事ではないでしょうか。今の学校ではそんな時間もほとんどありません
- 都立 東京都からの調査（例年の学校基本調査ではなく、突然の調査（1例は、推薦で短大に行くことができる学校名と内容をデータ化して24時間以内に送ることなど）の精選
- 小学校 現在は副校長補佐職が出来たので5年前と比べて改善されていると思いますが、学校でやること（教員でなければできないこと）と教員免許がなくても出来ること、また法律家に入ってもらわなければならないこと等がより明確になると良いと思います。
- 小学校 人手不足で産休が来ないと、副校長が担任にならなくてはならないのが異常です。副校長は何でも屋ではないと思います。
- 小学校 副校長補佐の仕事をしておりますが、PCが校内用のみ配置され苦境からのメール連絡用PCはありません。会計年度職員、時間講師の勤怠管理をしていますが関連メールを忙しい副校長に確認してもらう必要があるので副校長の手助けになるのか考えてしまいます。
- 小学校 会計年度職員の職務によって教育委員会の部署が異なるので、勤務報告も部署によって多少の差異があります。学校配属の会計年度職員管理を一本化してほしい。
- 小学校 特別支援通級の拠点校は調査、提出、勤怠管理等々仕事が多く、副校長2人必要なのではと思う時があります。
- 小学校 社会人なみの発言、学校にはいっていないと思われるが、ITを駆使して社会人並みの活躍、優秀であることは間違いない。学校の存在価値について考えさせられた。
- 小学校 子供の能力の高さに驚いた。平均的な教育と英才教育の在り方なども考えさせられる。
- 小学校 今年度の役員の皆様、よろしく申し上げます。
- 小学校 質を落としたり、単純に量を減らして良質な教育をする教員がいなくなりつつある。
- 小学校 レベルの高い教育ができるように世の中の風潮や保護者の過度なクレームや要求を振り払う法を制定し、執行する組織を作って教員・学校を守ってほしい。
- 小学校 役員の皆様、ご苦勞様です
- 小学校 今後の教育のためにご尽力いただきありがとうございます。

資料 アンケート用紙

令和7年度アンケート調査「副校長の働き方改革について」

東京都公立学校退職教頭・副校長会連合会

1)あなたの所属する部会を教えてください

- ①小学校部会 ②中学校部会 ③都立学校部会

2)あなたの年代層を教えてください

- ①60代 ②70代 ③80代以上

3)あなたにとって、副校長の資質・能力として重要と思うものは何ですか。(3つまで回答可)

- ①豊かな人間性と教育理念 ②人材育成能力 ③組織マネージメントカ
④危機管理能力 ⑤教育法規等の知識カ ⑥郊外折衝能力 ⑦連絡調整能力
⑧教科指導力、児童生徒指導力 ⑨教育に関する高い見識
⑩その他()

4)あなたにとって、副校長の働き方改革に関して改善の必要があると思うものは何ですか。

(3つまで回答可)

- ①副校長義務の明確化 ②情報通信技術(ICT)活用による業務効率化
③教職員の勤怠管理支 ④援スタッフ管理 ⑤欠員補充の人事管理
⑥勤務時間(超勤4項目)の管理厳格化 ⑦その他…()

5)あなたは副校長業務の中で他職種..(事務職員等)に移管できる業務はどれだと思いますか。

(3つまで回答可)

- ①学校行事の準備運営 ②調査統計の管理 ③転出入の事務関係 ④支援が必要な児童との連絡調整
⑤地域関係者との連絡調整 ⑥児童生徒の登下校指導 ⑦放課後
⑧児童生徒対応 ⑨その他()

6-1)あなたが現職時代に副校長・教頭として働き方改革に取り組んだことはありますか。

- ①ある ②ない

6-2)あると答えた方にお尋ねします。それはどのようなことですか。(3つまで回答可)

- ①教職員の勤務時間管理 ②教職員の休暇調査 ③教員・事務職員等との連携
④運営事務の効率化 ⑤郊外折衝の効率化 ⑥その他()

7)あなたにとって副校長の働き方改革を進める上で改革が可能だと思えることは何ですか。

- ①部活動支援 ②学校業務支援 ③不登校児童生徒の支援 ④特別支援教育の支援
⑤外国籍児童の支援 ⑥地域連携地域活動の支援
⑦その他()

8)我が国の教育改革を進める上で必要なのはどんなことですか。(3つまで回答可)

- ①学力向上の推進 ②教育デジタル化の推進 ③教員の働き方改革の推進
④学級定数改善の推進 ⑤教員定教改善の推進 ⑥教師の質の向上の推進
⑦その他()

9)働き方改革へのご意見がありましたらご記入ください

()

その他自由記述

東京都教育委員会への要請文

都公退教連第701号
令和7年12月22日東京都教育委員会
教育長 坂本 雅彦 様東京都公立学校退職教頭・副校長会連合会
会長 大西 規子
東京都公立小学校退職教頭・副校長会
東京都公立中学校退職教頭・副校長会
東京都立学校退職教頭・副校長会

文教施策及び文教予算措置に関する要請書

東京都公立学校退職教頭・副校長会連合会は、今日の社会状況・社会情勢の変化を鑑みて、教育界も変革の時代を迎えているととらえています。都民は教育課題への迅速な対応を求め、その改善の成果に注目しています。教育基盤は家庭と学校の協働から強固なものとなり、次世代を担う子どもたちの学びを豊かにし、その成果が社会に還元される原動力になります。その意味からも教育の果たす役割は大きくかつ計り知れない価値あるものとなります。その重要性を踏まえて、本連合会は、教育課題に対する短期的・長期的な視点から文教施策及び文教予算措置に関する要請をさせていただきます。

1. 教員の働き方改革推進と学校教育の質的向上について

- ① 学校教育現場での働き方改革における国の指針「学校と教師の業務3分類」の推進による教員の本来業務への専念と負担軽減を実現し、教員の付帯業務の軽減と支援業務を行う人材確保体制を鋭意進め、教員が本来業務に専念できる環境を充実させ、学校教育の質的向上につなげられるよう、更なる体制構築を推進していただきたい。
- ② 学校と教師の周辺業務を支える補助的教員や支援員等の充実と処遇改善や執務環境改善を進めていただきたい。非常勤教員や時間講師の業務遂行において、本務教員と同等のDX環境・ICT環境・GIGAスクール構想対応（PC不足・デジタル環境の利用制限等）が不十分なため、児童・生徒への効果的な学習支援や生活指導が行いにくい現状がある。また、今後も需要が増加するスクールカウンセラー、ICT支援員、図書館支援員、部活動支援員等の常勤化により本務教員への手厚い支援体制の構築を図っていただきたい。
- ③ 段階的移行が進む小・中学校の学級編制における児童・生徒数35人学級の完全実施を推進するとともに、増加している不登校児童・生徒対策の教育相談専任教員（心理士有資格者が望ましい）の加配、小学校低学年における特別支援教育対応等の副担任教員（増加する病休教員対応を兼ねる）の加配、主幹教諭等の持ち時間数の軽減を利用して学校独自の活用や想定外の事態に対応する等、都独自の施策で柔軟に利活用ができる教員の加配や校内支援体制を構築し、効果的な学校運営が行えるようにしていただきたい。

2. 副校長の働き方改革による業務負担軽減について

- ① 副校長の職務内容の厳選化・明確化を推進していただきたい。副校長業務の高度化・多様化が進む中で、教員の人材育成は学校教育の質的向上に多大な影響をもたらしている。教員が児童・生徒への教育指導の課題や職場の対人関係等での悩みなどを抱えることにより、心理的疾患を抱えることで休職に追

い込まれる事例は少なくない。副校長がこのような状況を未然に防止していくには、事務量の適正化によって副校長の組織マネジメント力等が発揮できるようにし、教員の人材育成に時間確保が図れるようにしていただきたい。

- ② 副校長の業務で特に負担感の重いものに公的な調査統計と学校人材の確保が挙げられる。調査統計の更なるDX化による効率化を図り、調査内容は同一内容を含む調査は統合化・簡略化をより一層推進していただきたい。産育代替教員や時間講師等の欠員補充や学校人材の確保については学校単位で行っているのが現状だが、地教委単位で人材バンクシステムを確立し、学校の需要に応じて人材提供するなど副校長の業務負担の軽減を図れるようにしていただきたい。
- ③ 副校長の長時間勤務は依然として改善が十分とは言えない。多様な業務支援人材の導入で業務負担は変化している。今年度の本連合会（小・中・都立）のアンケート調査結果では、副校長の働き方改革において改善が必要と考えられる課題として「副校長の職務の明確化」「欠員補充の人事管理」が多く挙げられた。また、他職員等への業務移管が可能なものとして「調査統計管理」が最も多かった。副校長の長時間勤務の軽減には、今後も業務支援の多様な人材の導入と本来業務に集中できる環境を継続的に整備し、副校長の時間外在校時間は月45時間以内に削減できるように継続的に勤務状況の把握・改善を図っていただきたい。

3. 東京都の教育施策全般について

- ① GIGAスクール構想と学校DX環境の整備・充実を継続的に推進していただきたい。子どもの個別最適な学びと協働的な学びの実現にあたって、一人一台端末と高速通信ネットワークの整備でGIGAスクール構想が進捗しているが、端末の更新時期、生成AIの活用、デジタル教科書の導入、予備機の不足等課題も多い。教員のICTスキルの向上や機器の整備・管理や日常の授業の支援を行うICT授業支援員の常駐化をしてはいかがなものか。また、校務DXの環境整備やデータ管理にも円滑な運用や自治体間の利用環境の格差は存在する。財政基盤の弱い自治体には、都が環境整備や予算措置を優先的にを行い、運用環境の格差を生じないようにするとともに情報セキュリティ対策も含めて支援していただきたい。
- ② 増加を続ける不登校対策への効果的な取組を強化していただきたい。誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策を目標に、都は切れ目のない支援を進め、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの全校への配置等を進めてきました。不登校の未然防止や不登校児童・生徒の登校復帰を支援し、心理的安定の環境の中で学習支援等を行う校内支援体制を構築できるようにしていただきたい。スクールカウンセラーや特別支援教室専門員の常勤化、教育相談を担当する心理系教諭（スクールサイコロジスト等）の制度創設を行うなど不登校対策の更なる取組の強化を求めます。「都立高校におけるチャレンジサポートプラン」を推進し、都立学校の再編を進め、多様な中等教育と定時制通信制高校での教育の充実を図っていただきたい。
- ③ 東京都の特別支援教育は、推進計画（第Ⅱ期）第三次実施計画に基づいて共生社会の実現に向け、障害のある子どもたちを誰一人取り残さず、連続性のある多様な学びの場において一人一人の状況に応じて適切な指導や必要な支援が行われ、発達障害のある児童・生徒を就学前から切れ目のない支援体制の構築が進められています。小・中学校での特別支援教育系教員の巡回ではない常時配置化等による特別支援教室の充実・効率化、都立学校での特別支援教育の充実や施設設備の拡充等、都の施策をもとに推進・改善を図っていただきたい。
- ④ 家庭の教育費負担軽減による教育機会の均等確保のため、小・中学校での給食費の無償化推進のための自治体支援の拡充、高校生への給付型奨学金制度の拡充による高等教育進学への道を確保し、児童・生徒が社会貢献や自己実現につなげることができるよう制度の拡充を図っていただきたい。
- ⑤ 多摩地域・島しょ部の教育環境格差の改善・是正を今後も進めていただきたい。教育施設の老朽化対策、学校予算の拡充、人的資源の充実等教育の機会均等の視点から更なる改善を図っていただきたい。

東京都公立学校退職教頭・副校長会連合会会則

第一章 総 則

- 第 1 条 本会は東京都公立学校退職教頭・副校長会連合会という
所在地を会長宅に置く
- 第 2 条 本会は東京都公立小学校・東京都立中学校・東京都立学校退職教頭・副校長会（以下 都小・都中
・都立学校退職教頭・副校長会という）相互の連携を密にし併せて教育の振興に寄与することを目的とす
る
- 第 3 条 本会は前条の目的を達成するため次の事業を行う
- 1 教育振興の為の事業
 - 2 役員会が企画する事業
 - 3 会員相互の親睦

第二章 会員・役員

- 第 4 条 本会は都小・都中・都立学校退職教頭・副校長会で構成する
- 第 5 条 本会に次の役員を置く
- 1 会長…1 名
 - 2 副会長…12 名
 - 3 理事… 12 名以上
 - 4 事務局長…1 名
 - 5 監事…3 名
 - 6 顧問… 若干名
- 第 6 条 役員の出選は次の通り行い総会の承認(多数決)をうる
- 1 会長は役員会により選出する
 - 2 副会長は都小・都中・都立学校退職教頭・副校長会より各 4 名選出する
 - 3 理事は都小・都中・都立学校退職教頭・副校長会より各 4 名以上選出する
 - 4 事務局長は会長が委嘱する
 - 5 監事は都小・都中・都立学校退職教頭・副校長会より各 1 名を選出する
 - 6 顧問は役員会の推薦による
- 第 7 条 会長は会務を統括し本会を代表する 副会長は会長を補佐し会長事故ある時はその職務を代行する
- 第 8 条 理事は 1 庶務 2 企画 3 会計の業務を行う各担当者は会長が委嘱する
- 第 9 条 事務局長は本会運営に関する事項を整理し役員等の任務を補佐する
- 第 10 条 監事は本会の経理を監査する
- 第 11 条 役員の出選は 2 年とするただし再任を妨げない。
任期途中で出選の場合は前任者の残任期間とする
- 第 12 条 顧問は必要に応じて本会の諮問を受ける

第三章 会 議

- 第 13 条 本会の会議は総会・役員会とし会長がこれを招集する
- 第 14 条 総会は会則の変更(多数決)役員及び予算・決算の承認(多数決)事業・企画などの重要事項を 審議する
- 第 15 条 役員会は必要に応じて開き会務について協議する

第四章 会 計

- 第 16 条 本会の会計は分担金及び寄付金その他をもって充てる
- 第 17 条 本会の会計年度は毎年 4 月 1 日から始まり 3 月末日に終わる

第五章 付 則

- 第 18 条 本会則は昭和 6 2 年 7 月 17 日設定年月日より施行する

改正 平成 6 年 6 月 18 日
改正 平成 12 年 6 月 24 日
改正 平成 16 年 6 月 23 日
改正 平成 17 年 6 月 22 日
改正 平成 18 年 10 月 6 日
改正 令和 4 年 6 月 21 日

(公財)日本教育公務員弘済会東京支部教育振興事業選考委員会について

当会における教育振興事業選考委員会の概要は以下の通りです。

<選考委員会の構成>

1. 学識経験者1名
2. 退職区長会より4名(異なる校種から)
3. 退職教頭・副校長会連合会より4名(異なる校種から)
4. 支部長が推薦する者

<選考委員の役割>

弘済会の公益事業について以下の選考等を行う

1. 奨学金貸与・給付候補者の決定等
2. 一般研究助成金交付候補者の決定等
3. 団体研究助成候補者の決定等
4. 研究助成奨励金候補者の決定等
5. 教育文化奨励金候補者の決定等
6. へき地学校支援事業候補者の決定等
7. その他、公益事業に係る助成の決定

2025年度教育振興事業選考委員会 選考委員推薦名簿

貴団体名 東京都公立学校退職教頭・副校長会連合会

貴会での役職名	氏名	最終勤務校	職名
小学校庶務	豊田英昭	北区立柳田小学校	副校長
中学校副会長	西川 順	青梅市立第一中学校	教 頭
中学校理事	福岡 健	葛飾区立亀有中学校	副校長
都立学校副会長	大河内保雪	都立松原高等学校	副校長

* 弘済会からの委嘱期限に合わせて検討する。

編集後記

今年度は、例年に比べ、重い内容の課題に取り組んだ年となったようです。「副校長の働き方改革について」は、「教員の働きかた」同様に、何年も抱えてきた大きな課題ですが、一向に解決への道筋が見えない状況です。改革が進まないまま、今日に至り、結果として、教員志望者の激減、問題行動を起こす教員の増加といった負の連鎖が繰り返している状況です。一方では、不登校生徒の増加など一層深刻な状況にあり、教育界を取り巻く環境がますます厳しくなっています。

課題が広範囲にそして深刻になる状況にあって、連合会として、どのような提言や支援ができるのか、引き続き期待をしたいものです。

暗い状況ばかりではありません。連合会の研修や各部会独自の研修など昨年以上に活発化しました。たとえば、中学校部会の南房総研修旅行では、小学校、都立学校からも参加し総勢11名となりました。この研修旅行で、会員相互の交流も深まり、一層の連携が深まったようです。

今年度の様々な研修や活動を通して、抱える問題が、部会ごと相当違うと実感しました。同時に、問題解決に当たっては、様々な視点から考察してゆくことの重要性を改めて認識しました。



東京都公立学校退職教頭・副校長会連合会

会 長 大西規子

事務所 〒113-0034 東京都文京区湯島4-12-2-102

TEL : 03-5809-0821 FAX : 03-5809-0863

印刷 都中退教事務局 編集 湯澤賢兒

連合会ホームページ

<https://to-tai-fuku-ren.com/>

会員のページにアクセスするためのパスワードは「2905」

